

## 現状と課題

わが国は、本格的な高齢社会を迎えており、高齢者が今後も住み慣れた地域で、安心して暮らしていける体制や、健康保持のための介護予防の取り組みを、一層進めていく必要があります。

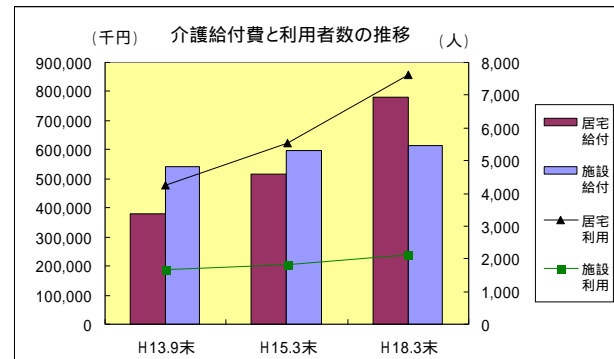
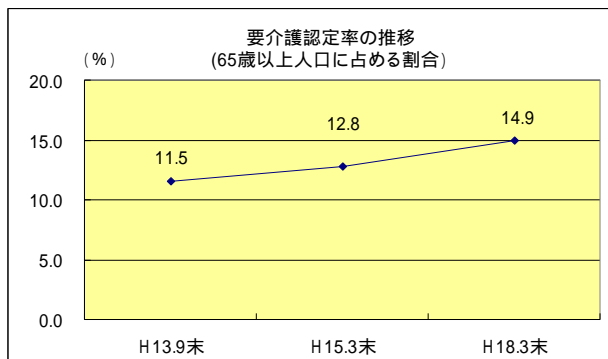
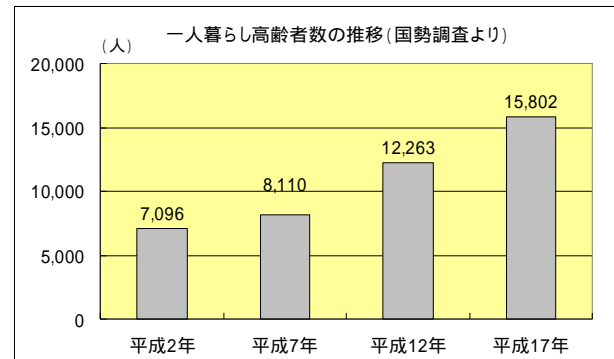
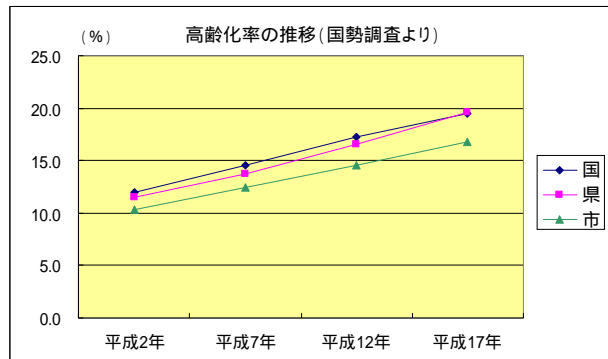
本市の、福祉人口統計による平成19年10月1日現在の高齢化率は17.7%であり、平成19年9月15日推計の全国の21.5%に比べて低い水準になっています。

高齢者保健福祉事業等の推進を図るために、市では、「西宮市高齢者保健福祉計画・西宮市介護保険事業計画」を策定し、高齢者施策の推進や、介護保険事業の適正な運営に努めています。

今後、急速な高齢化に伴い、介護給付額の肥大化が予測されています。価値観の複雑・多様化や核家族化などにより何らかの介護が必要となる高齢者が増加しており、介護保険制度のより一層の活用や介護保険制度以外の高齢者福祉の施策の充実が求められています。

一人暮らし高齢者や認知症高齢者が住み慣れた地域で、尊厳をもって生き生きとした日常生活が送れるよう、平成18年度に設置された地域包括支援センターを拠点に、高齢者一人ひとりに応じた「尊厳を支えるケアマネジメント」を行う必要があります。

長くなる高齢期を生き生きと過ごせるよう、日常の健康づくりとともに高齢者の地域活動への積極的な参加が求められています。



## 基本方針

すべての高齢者が地域社会を構築する重要な一員として尊重され、尊厳を保ちながら生涯にわたって住み慣れた地域で、安心した生活が送れるよう、コミュニティを活性化するとともに、保健・医療・福祉サービスの総合的な支援体制の整備を図ります。

## 主要な施策展開

### (1) 援助を必要とする高齢者への施策の充実

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者等の実態を把握し、安心して日常生活を送れるよう、施策を展開します。また、介護保険制度の利用の促進を図るとともに、介護保険が適用されない市の単独施策をアンケート調査などにより高齢者の意見を聞きながら展開します。

### (2) コミュニティの活性化

コミュニティの核として、地域包括支援センターの機能・体制の充実を図り、高齢者が地域活動に積極的に参加できるよう施策を展開します。

### (3) 介護予防の推進

要介護状態とならないために、あるいは、これ以上に要介護状態が悪化しないために、介護予防事業の取り組みを積極的に行い、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、生き生きと自立した生活が送れるよう支援します。

### (4) 高齢者の社会参加の促進

高齢者の自立や生きがいづくりを支援するため、就業支援に努めるほか、シルバー人材センターの充実を図るとともに、老人クラブ等の生涯学習・交流活動の促進、世代間交流の機会拡大を図ります。

さらに、高齢者の学習活動やレクリエーション活動を促進し、豊かな知識や経験を生かすことができるよう、高齢者が主体となるボランティア活動の支援や、生涯学習大学「宮水学園」の充実を図ります。

## 市民一人ひとりの活動

福祉に対する意識を高める。  
地域住民による支えあいや地域活動へ積極的に参加する。

## まちづくり指標

### <指標の考え方>

高齢者が要支援・要介護状態にならないよう、介護予防事業の参加者と生活機能評価の受診者の増加を重点指標に位置付け、内容の充実や広報等に力を入れていきます。また、災害時における要援護者の安心・安全の取り組みとして、地域安心ネットワークへの登録者数を増やす工夫を行っていきます。

重点	指標名	単位	現状値(H18)	目標値(H30)	指標方向
	介護予防事業参加者数	%	0.05	5.00	▲
		式	介護予防参加者数/65歳以上高齢者人口		
H30目標値の設定理由 国の目標値を使用					
	生活機能評価(老人健康診査)の受診者数	%	52.80	65.00	▲
		式	生活機能評価受診者数/(65歳以上高齢者人口-要支援・介護認定者数)		
H30目標値の設定理由 国の目標値を使用					
	地域安心ネットワークへの登録者数(単身のみ)	人	4,780	7,900	▲
		式	-		
H30目標値の設定理由 高齢単身世帯の50%を目標に設定					

## 主な部門別計画

西宮市高齢者福祉計画・西宮市介護保険事業計画  
西宮市地域福祉計画

【健康福祉局：平成18年4月～平成21年3月】  
【健康福祉局：平成17年4月～平成22年3月】